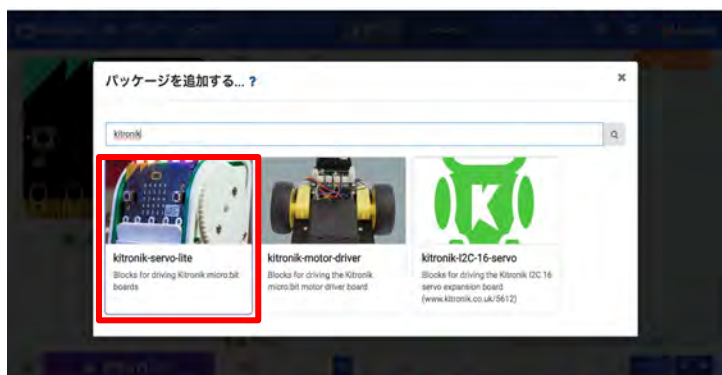


# バギーを動かす | アドオンのダウンロード



①画面右上の設定マーク [歯車のアイコン] から、「パッケージを追加する」を選ぶ



②「kitronik-servo-lite」と検索バーに入力し、選択する



③新たに「Servo:Lite」が追加されたことを確認する

# バギーを動かす | ブロックの説明

 drive forwards  0 distance

「」分だけ前に進む

 goto neutral position

基準となる位置に戻すこと

 stop

止まる

 turn right

右に曲がる

 turn left

左に曲がる

 drive backward


後ろに進む

 drive forward

前に進む

 drive backwards  0 distance

「」分だけ後ろに進む

 calibrate forward speed to  0 mm per second


前進するときの速さを秒速「」mmにセットする

 turn left  90 degrees

左に「」度曲がる

 turn right  90 degrees

右に「」度曲がる

 calibrate turn speed to  0 degrees per second

曲がる時ときの速さを秒速「」mmにセットする

# 無線でうごかす

## 《送信側》



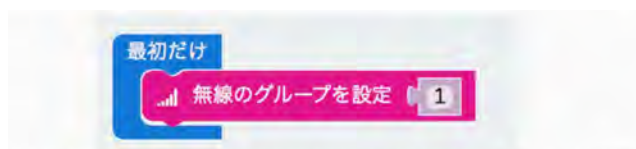
①無線でつなぐマイクロビットのグループを設定する



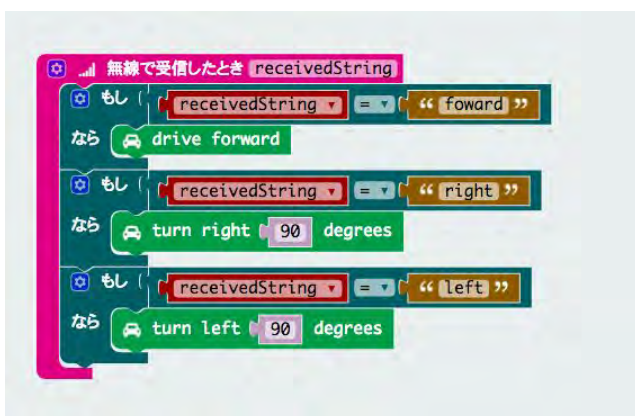
②「入力」のタブから各種ボタンをしたときにマイクロビットにどのように動いてほしいかプログラムをかく

■ 送信側のマイクロビットが機能していることをわかりやすくするために LED が光るように設定しておくとい  
かもかもしれません

## 《受信側》



①無線でつなぐマイクロビットのグループを設定する



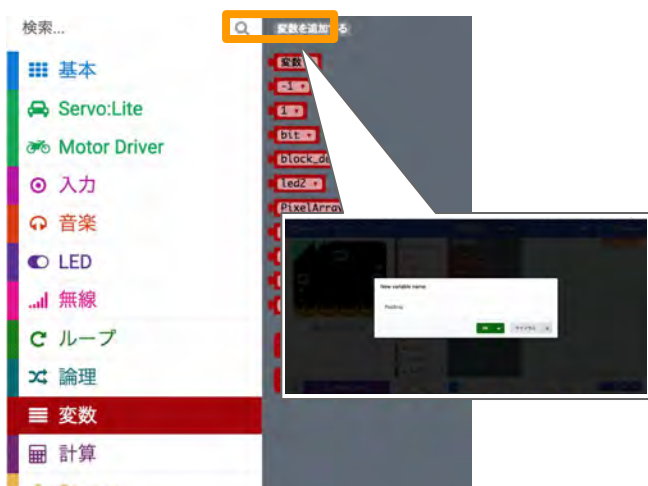
②「無線で受信したとき」ブロックは1度 に1  
つしか使えない  
そこで、「論理」のタブの中の  
「もし～なら、でなければ」ブロックを 使って  
バギーの動きが変わるプログラム をかく

※このとき選ぶのは  
「無線で受信したとき」[receivedString]  
であることに注意。

# ネオピクセルを光らせる



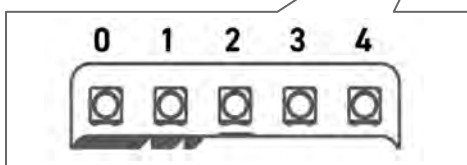
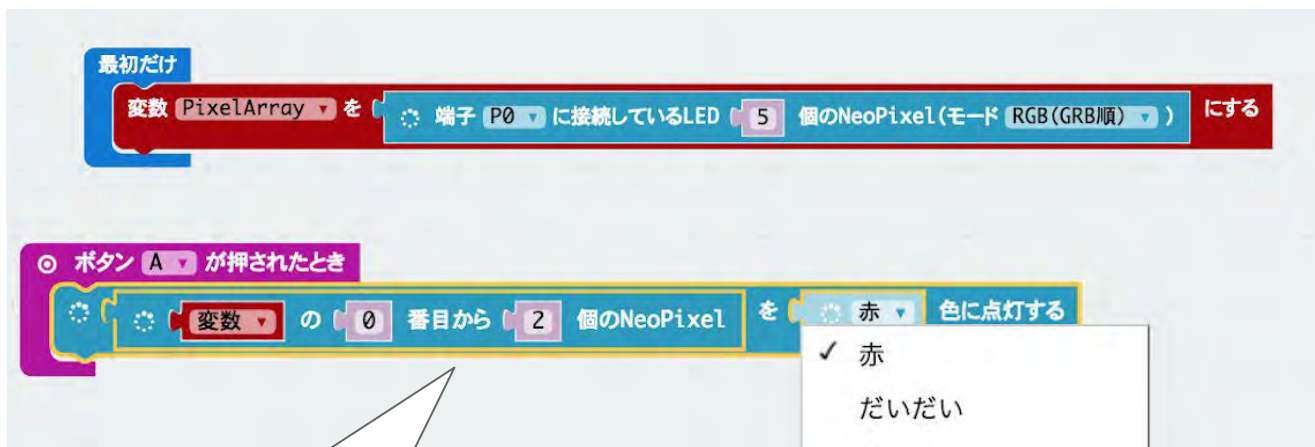
①設定マークから「neopixel」のアドオンを追加



②「変数」のタブの一番上にある「変数を追加する」をクリックし、今回のプログラムで使うための変数を作る

※ 名前はなんでも大丈夫です。

③次に、下の図のようなプログラムを書き、マイクロビットに接続しているピクセルライトが5つであることを指定する。



④本体一番左のピクセルライトを0とし、「ボタンAが押されたとき」に好きなライトを好きな色に点灯/点滅させてみる

※「さらに表示」の中にもさまざまなブロックがあるので、見てみましょう